

# プレミアム付き商品券の発行と 住民向け市内観光の推進

## 持続可能な島づくりを実践する壱岐市

福岡県と長崎県対馬市の中間地点で玄界灘に面し、福岡市博多港から郷ノ浦港へ西北に七六キロメートル、佐賀県唐津東港から印通寺港へ北に四一キロメートルに位置する壱岐市は、総面積一三九・四二平方キロメートルで壱岐本島と二三の属島（うち有人島四島）からなります。壱岐本島は、全国で二〇番目に大きな島です。

高速船やフェリーのほか、長崎空港から空路で結ばれており、距離・アクセス面など離島としては比較的恵まれているようですが、人口は約二万六〇〇〇人にまで減少し、少子高齢化が進行しています。現在、「特定有人国境離島地域社会維持推進交付金」の活用や「SDGs 未来都市」への選定などを活かし、人口が減少しても持続可能で豊かに暮

壱岐市 観光課長

岡部 一也

商工振興課長

出口威智郎



らせる社会・経済モデルの構築に向け、定住対策やU・I・ターン施策、関係人口増加策、結婚から出産子育て支援策などを総合的に展開しています。

なかでも、九州随一の白砂のビーチや猿岩さるいわなどの自然、幻の牛と言われる壱岐牛やウニ・マグロなどの美味しい食材、市内に一〇〇〇以上ある神社や日本遺産第一号に認定された歴史・文化を活かした観光の振興は、本市の経済を牽引し、持続可能な島づくりの重要な役割を担っています。

## 閉塞感を打破するプレミアム商品券の発行

壱岐市では、三月一四日に県内で初めて、全国の離島で初となる新型コロナウイルス感染者が確認されました。その後、緊急事態宣言の発出などもあり、経済的に最も悲痛な叫びをあげたのが、市内の宿泊施設および飲食店、観光

客や修学旅行生の利用を中心とする貸し切りバス事業者でした。島外からの観光客などの受け入れを中止したため、宿泊者は皆無、飲食店は休業もしくは時短営業を余儀なくされました。そのような自粛生活の中、なんとか市内経済を循環させようと、プレミアム付き商品券の発行事業および市民による市内の宿泊施設・貸し切りバスの活用に対する助成を実施しました。

前者については、①自粛期間中でも使えるよう工夫する、②即効性のある経済効果を狙う、③疲弊した市民が自粛期間中でもワクワクするような内容で消費喚起にもつながるよう趣向を凝らす、の三点を重点事項として計画を策定し、第一弾・第二弾「壹岐市プレミアム商品券」の発行にいたしました。

第一弾の商品券は、使途を飲食店と宿泊施設での飲食サービスに限定し、プレミアム率を今までにない六〇パーセント（五〇〇〇円で八〇〇〇円分の商品券）とし、即効性を持たせるため使用期限を六月三日と約二カ月間にしました。この時期、飲食店内での食事が難しい状況であったため、飲食店で販売する「テイクアウトめし」も使用対象としま



6日間で完売となった第一弾「壹岐市プレミアム商品券」。

した。五月七日より、限定五〇〇〇セット・発行総額四〇〇〇万円で発売したところ、想像以上に好評で、わずか六日間での完売となりました。

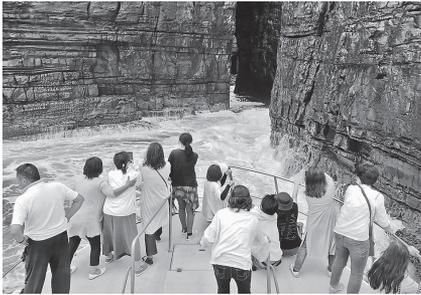
これを受け本来七月上旬に予定していた第二弾の商品券の発行を一カ月前倒し、六月一日の発行を決定。今回は、プレミアム率を四〇パーセント（五〇〇〇円で七〇〇〇円分の商品券）、発行枚数を第一弾の九倍となる四万五〇〇〇セット・発行総額三億一五〇〇万円とし、飲食店でのみ使える商品券を二枚（一〇〇〇円/枚）、納税・換金・島外への渡航以外であれば受け取り側が拒否しない限り何にでも使える商品券を五枚、計七枚を一セットで販売したところ、これも大好評でわずか一日間で完売しました。販売所には、親子三代で購入に来る方もいるなど、コロナ禍で閉塞感が漂う島の中で、久しぶりに活気ある笑顔の溢れる光景を見ることができました。

### 市民向け市内観光の推進

市民による市内の宿泊施設の利用に対しては、「市民限定島内宿泊施設応援キャンペーン」として、宿泊施設の早急な支援を五月七日から七月三十一日まで実施しました。売上が激減していた農家・畜産農家への支援や生産物の活用も考慮して、内容は一泊二食付きの宿泊料金を半額支援するものとし、宿泊施設にもキャンペーン向けの特別プランの造成やコロナ対策の実践にご協力いただくなど、前向き

な内容となるように工夫。島外へ旅行に行くことができないストレス解消として、通常であれば泊まることのない島内の宿泊施設を利用する新鮮さを楽しんでもらえるよう企画した結果、当初こそ「家があるのにわざわざ宿泊施設に泊まるわけがない」などの否定的な意見が多かったものの、県の宿泊施設への助成事業である「長崎県民限定／ふるさと再発見の旅」宿泊施設応援キャンペーンとの併用により、予想を覆し、二〇〇〇人泊の目標に対し、五〇〇〇人泊以上を達成しました。島外への渡航に自粛要請が課せられている中、「島外へ旅行した気分になった」「老岐の魅力を再発見するいい機会だった」「遠出が難しい高齢の両親を連れていき、とても喜ばれて親孝行ができた」など、多くの市民から好評をいただきました。

市民向け貸し切りバスの活用に関しては、「市民限定島内バスツアーキャンペーン」として、貸し切りバス事業者の支援はもちろん、コロナの影響を受けているバス立寄施設（飲食・観光施設）に対する支援も視野に入れました。五月二三日から八月末まで市内を周遊す



市民限定島内バスツアーの様様。

る昼食付きの六時間ツアーを一人一〇〇〇円で企画。密集にならないよう一団体二〇名以下とする、バス会社にも除菌システムの搭載や徹底した換気の実施に協力いただくなどのコロナ対策を実践しています。島内のさまざまな団体の集まりがすべて中止されるなか、職場の仲間や子供会、老人会などからの利用があり、当初の予定を大きく上回って締め切り前に販売終了となりました。

### ふるさと小包で島外に住む子どもを応援

島内では、以上の三事業などにより当面の経済を回してきましたが、島外に住む老岐市出身の子ども達もコロナの影響を受けていました。親元を離れて一人で一所懸命に勉強やスポーツなどに励んでいる彼らにとって、ゴールデンウィークの帰省はとても楽しみだったはず。しかし、コロナ感染拡大防止の観点から、子ども達に対しても帰省を自粛する要請を行ないました。親も子ども非常に厳しい決断だったとは思いますが、真面目な島の子ども達は、ほとんどが要請に従ったようです。実家に帰れず、島外にいても外出自粛で部屋からも出られないという非常に苦しい連休だったと思います。

そんな彼らに家にいながら少しでもふるさとを感じてもらおうと、「ふるさと応援小包便発送事業」を企画しました。これは、帰省を自粛した子ども達に老岐の特産品などを送るもので、ひとつの箱の中に島産の米・トマト・お菓子な



島外に住む子どもたちを応援する「ふるさと応援小包便」。

どの食料品とマスク、そして帰省自粛のお礼と励ましの言葉を添えた白川博一市長の手紙を詰め合わせました。送料込みで一箱一〇〇〇円で販売し、遠くは北海道・沖縄まで思いを込めて発送したところ、大変好評で保護者や子ども達から感謝の手紙もいただきました。両親とふるさとは、いつもわが子のことを想っているという気持ち伝わったのだと思います。

また、コロナの収束後、他地域に遅れることなく経済を回復・活性化させるため、速やかに島外からの誘客を取り戻し、観光需要を喚起することを目的に、六月一九日の緊急事態宣言解除後、島外向けに大手コンビニで販売する「プレミアム宿泊券発行事業」「苓岐市応援旅行商品造成事業」に取り組みました。これは、八月から開始予定であった国の「GOTOキャンペーン」までのつなぎの施策として、誘客のために両事業ともに五〇〇〇円の割り引き、あわせて五〇〇〇人泊の宿泊費を助成するものです。

そのほか観光業以外の支援策では、本市の基幹産業である農業（特に畜産業）への助成を行ないました。枝肉単価が低下し、肥育農家の経営悪化

が懸念されるため、優良な肥育牛の生産計画を作成し、経営の体質強化に資するメニューに二つ以上取り組む肥育農家に対して、国の緊急支援特別事業に加え、市単独で出荷頭数に応じ一頭あたり二万円を支援するものです。また、漁業への助成としては、魚介類の需要が低下し、魚価の値崩れが発生した漁業者の経営維持と収入確保、さらに漁協の経営維持を図るため、水揚手数料の五パーセント相当額を五〜一〇月まで支援することとしました。

緊急経済対策は、現状を冷静に分析し、今何が一番必要か、限られた予算の中で何を行なうべきかを考えること。差し当たつての事業は、選択と集中を行ない、すぐ実行に移すことが肝要です。またその中においても市民に広く恩恵があり、閉塞感を打破するような策であればなお素晴らしいと考えています。

これまで経験したことがないウイルスとの戦いに全国の皆様が疲弊しているかと思いますが、多くの方々が自由に旅を満喫できる日まで、苓岐は頑張りが続きます。ぜひ皆様、その日が来たらわが島へお越しください。お待ちしております。

#### ■ 岡部一也（おかべ かずや）

昭和46年、長崎県苓岐市（旧郷ノ浦町）生まれ。苓岐高校卒業後、郷ノ浦町役場に入庁。平成28年4月より苓岐市観光課に勤務、観光による地域振興を担当。苓岐一筋、愛する苓岐のコロナからのいち早い復興を目指している。

#### ■ 出口威智郎（でぐち いちろう）

昭和50年、長崎県苓岐市（旧郷ノ浦町）生まれ。大学卒業後、郷ノ浦町役場に入庁。苓岐市福岡事務所、苓岐市ふるさと商社勤務を経て今春より現職。苓岐焼酎の普及促進に情熱を燃やす。